

現地を訪問して想うこと

2010年卒 経済学部 稲葉景子

B 宮城県コース

私が今回東北応援ツアーに参加し一番に想うことは「行ってよかった。行けてよかった。」ということです。今回参加させていただいたのは、私の出身地でもある三重県南部は東海大地震がいつ起こってもおかしくなく、また地震が起こった際に津波が来ると言われている地域であるため震災当時から決して他人事ではなく、その現状を自分の目で見たいという気持ちがあったからです。震災から約1年8カ月が経ち仙台の街並みからは震災があったことが嘘のように感じました。しかしバスで仙台市内から出ると瓦礫の残る街並みや塩害で黒くなった杉など津波の威力やこんなところまで波が来たということを経験することができました。

正直、参加する直前まで被災地の方々は、震災の影響がほとんどない地域から「ツアー」として参加する私達についてどのように感じるのだろうと不安でした。しかし、ツアーに参加された被災者の方がバスの中での自己紹介の時に「来てくれてありがとう」という言葉で不安を解消することができました。被災地に訪問して、たくさんの方々のお話を聞く中で「忘れる」ということは絶対にしてはいけないと感じました。報道の回数は格段に減っていき、日常の忙しさからどうしても忘れがちになりますが「忘れないこと」も支援の一つだと思いました。

2日間という時間はあっという間でしたが、同じ志を持って参加した方々や実際に被災され大変だったのにも関わらず笑顔でもてなしてくださった方々と過ごすことができ、自分にできる支援を今後も続けていこうと強く思いました。